

かしわ

「生き抜く力」について

—本校の重点目標との関連—

校長 北村耕一

今回は、4月22日の今年度の保護者説明会や「かしわ4号」の中で使用した「生き抜く力」についての私見を述べたいと思います。

私はこの言葉について、平成24年度から個人的に使用していると記憶しています。教頭職時代、また、昨年度本校に着任した際にも、教職員に話をしています。

保護者の皆様は「生きる力と間違えているのでは？」と思われるかもしれませんが、間違えて話しているのではなく、意識して使用しています。

私は手元にいつもある資料を持っています。それは平成25年2月1日版の「内外教育」の巻頭言のコピーです。

そこには教育ジャーナリストの斉藤剛史氏が「生き抜く力」について書いています。斉藤氏は「生き抜く力」について「(前略) 防災教育に限らず、『生きる力』を上回る『生き抜く力』が必要になるほど、日本の社会は厳しくなっている。(中略) 人間は死ぬまで生きるのが道理で、生きるのに特別な力など必要ない。(中略) あらゆる予測を超える厳しい社会が訪れる。その時に、子どもたちにどんな力が必要なのか。社会格差の増大、非正規雇用の増加、世界的不況、そして『(東日本大震災の)3.11』を経て、子どもたちはどんな社会を生きるのか。『学力』のみあっても生き抜けないことだけは、確かだろう」と述べていました。

3年前に書かれた文章ですが、4月中旬の熊本地震のことなども考え(例えば避難場所に指定されていない高校に避難してきた人々がパブリックでグラントに文字を書き、必要



No. 5 平成28年6月1日 校長室の胡蝶蘭

な物資を伝えたこと)、「生き抜く力」の基礎を学校教育で身に付けさせたいと思っています。

斉藤氏は「学力のみあっても生き抜けない」と言われていますが、私は「生き抜く力」を身に付けるためには「学力」が基本アイテムにと思っています。そして「学力」は「知識」につながるとしています。「知識」は私たちが一生涯かけて身に付けていくものではないでしょうか。

本校の今年度の重点目標1「豊かな言語力の育成と確かな学力の育成」、重点目標2「豊かな心と社会性を育む指導の充実」、重点目標4「健康で安全な学校生活の推進」は、「かしわ1号」で紹介しましたように、それぞれ4つの項目から成り立っています。そして、その内容は「生き抜く力」の育成に繋がっていると思っています。

前述した一生涯かけて身に付けていく「知識」については、日々の学習と経験によって更新されるものです。私も60年近く生きていますが、「知識」不足で、日々の生活で失敗を繰り返しています。

重点目標1の中の④で「社会を生き抜く力につながる生涯学習の基盤となる家庭学習の習慣化を保護者と協力して目指す」と提示しました。子どもたちの「生き抜く力」は学校と家庭で育成していくものだと思います。学校における教科の授業・行事による体験、家庭での学習・家族との体験が大切だということを常に意識していきたいと思います。

交通安全教室

—ルールを守って生活しましょう!—

教諭 辻 祐太

今回の交通安全教室の内容は主に2つで、1つ目

が安全な自転車の乗り方について、そして2つ目が、正しい横断歩道の渡り方でした。

安全な自転車の乗り方では、自転車に乗れる子も、乗れない子も、しっかりと話を聞くことができました。乗る前に、サドルの位置を確認することやブレーキは効くか、タイヤにしっかりと空気は入っているかを確認することの大切さを勉強することができました。指導員さんと一緒に確認をしている様子が見られました。

また、見渡しの悪い交差点での自転車の運転方法を確認しました。子どもたちは、交差点の死角に隠れている自動車を見て、とても驚いていました。自動車以外にも、歩行者や自転車などがとび出してくる危険があることを勉強しました。自転車は車と同じなんだと指導員さんが言っていることに驚く子どももいましたが、同時に注意して乗らないと、とても危ない乗り物なのだということを知ることができたと思います。

正しい横断歩道の渡り方では、指導員さんのお手本を見て、正しい渡り方を1人1人が実演しました。しっかりと手を上げて渡ることや、右左を見て渡ることなど、それぞれが渡り方を勉強することができました。間違っただけのお手本を川島先生が実演すると、子どもたちは「ちがうよ、こうだよ」と正しい渡り方を積極的に教えてくれました。

今回の交通安全教室で、子どもたちは改めて道路には様々な危険があることを感じたと思います。学校の登下校だけでなく、普段から交通ルールをしっかりと守り、事故なく過ごしてほしいと思います。



デフ・パペットシアターひとみ

－ワークショップの様子－

教諭 黒川 はるみ

5月27日(金)にデフ・パペットシアターひとみさんのワークショップがありました。事前に指示された持ち物は小さな箱が3つほど……。 「箱で何をやるのだろう？」……前日までは、誰もの頭に「？」が飛び交っていました。

最初のパフォーマンスは小さな箱を持った人の前で、数人が集まってポーズをするというもの。「この箱はなあに？」と聞かれて「カマ」と元気な声。次のパフォーマンスは大きなダンボール箱4つにそれぞれが座り、車に見立てて運転を。乗っている様子や急ブレーキをかけた様子がリアルで思わず笑ってしまいました。

その後は、例を参考にして、グループごとに箱を使って表現できるものを考え、発表しました。どのグループも芸達者で、普段の生活がしのばれる発言もありました。最後の発表を基に発展させたものを、7月8日(金)の本公演で発表します。だから中身は本番まで内緒です。完成版を見に、ぜひ、ろう学校までお越しください。もちろん、ひとみさんの劇も上演されますので、楽しみに。

幼稚部 春の遠足

教諭 最上 裕美

5月25日(水)は、幼稚部の野毛山動物園の遠足でした。幼稚部のお友だち、そしてお父さん、お母さんみんなそろって元気に行くことができました。

「しゅっぱーつ」の掛け声で、園内をきちんと並んで、上手に歩いて見て回ることができました。動物を見つけては、「あっ、いた!」「あったー!」指をさしたり、しおりの写真を確認していました。

楽しみにしていたふれあい広場では、はつかねずみ、にわとりを そーっと抱っこしたり、モレットに優しくグアをしてあげました。係の方のお話をきちんと座ってよく聞いて、あいさつもしっかりできました。

そして お待ちかねのお弁当。お母さんの作ってくれたおいしいお弁当の後は、おやつを交換を楽しみました。「どう



ぞ」「ありがとう」と、お友だちのそばへ行って、上手に渡したり、もらったりしていました。

いろいろな動物たちとのふれあいの中で、幼稚部みんなと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。